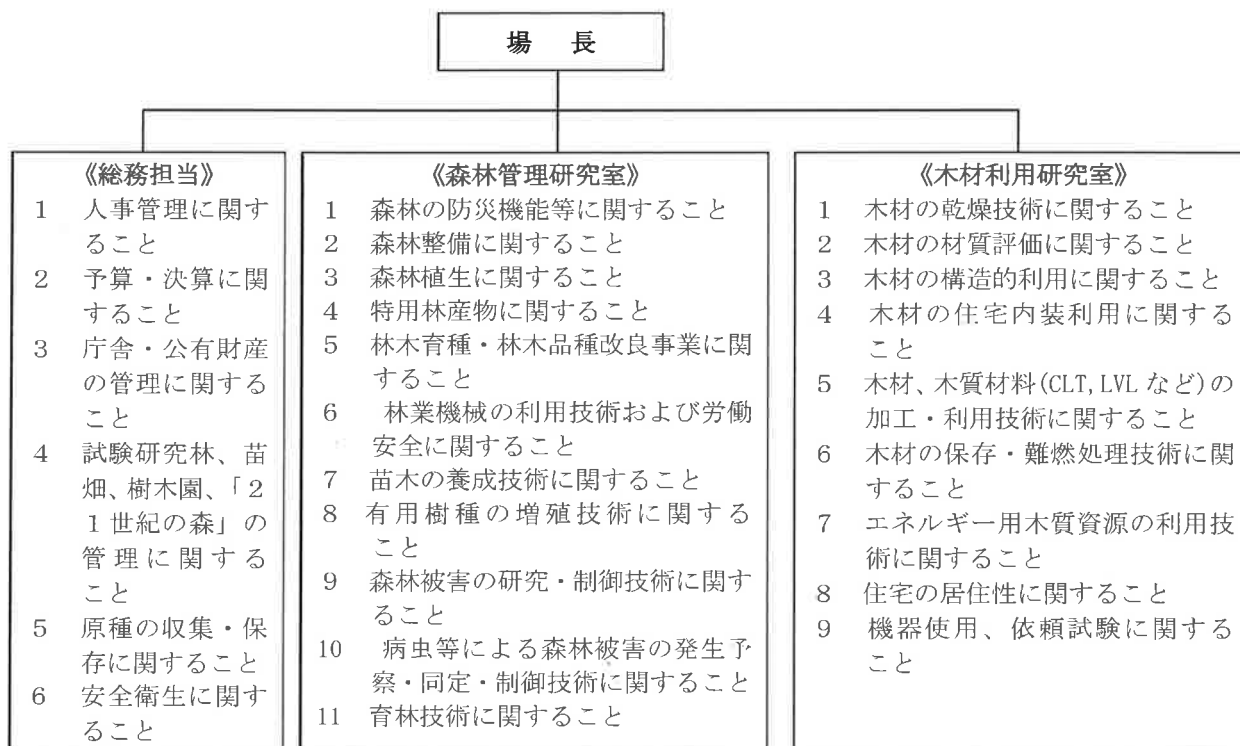


I 沿革

- 昭和 30 年 9 月 鳥取市立川町 6 丁目（旧練兵場跡地）に鳥取県林業試験場（庶務係・施業部・改良部を設置）として開場し、全国で 21 番目の公立林業試験場として業務を開始した。
- 昭和 34 年 4 月 施業部を経営部に、改良部を造林部に改称する。
- 昭和 37 年 9 月 部制を科制に改称し、1 係 2 科制となる。
- 昭和 45 年 4 月 係制を課制に改称し、総務課、経営科、造林科の 1 課 2 科制となる。
- 昭和 50 年 4 月 林木品種改良事業を造林課より当場に移管する。
- 昭和 51 年 4 月 育種科を新設し、総務課、経営科、造林科、育種科の 1 課 3 科制となる。
- 昭和 55 年 4 月 保護科を新設し、総務課、経営科、造林科、育種科、保護科の 1 課 4 科制となる。
- 昭和 55 年 6 月 林業試験場を八頭郡河原町稲常（現 鳥取市河原町稲常）へ新築移転する。
- 平成 7 年 4 月 科制を室制に改称し、総務課、森林造成研究室、林業生産研究室、森林管理研究室、木材加工研究室の 1 課 4 室制となる。
- 平成 7 年 10 月 木材加工研究棟の新設。
- 平成 17 年 4 月 森林管理研究室、木材利用研究室の 2 研究室制となる。
- 平成 18 年 4 月 農林水産部内に農林総合技術研究院が新設され、総務課が総務普及課となる。
- 平成 20 年 4 月 農林総合技術研究院が農林総合研究所となり、林業試験場は農林総合研究所林業試験場となる。併せて総務普及課が農林総合研究所企画総務部に統廃合される。
- 平成 26 年 4 月 農林総合研究所体制が再編され、各試験場は本庁所管課の地方機関とされ、林業試験場は農林水産部林政企画課の傘下となる。
- 平成 29 年 3 月 「とっとり林業技術訓練センター『愛称：Gut Holz』」新設。
- 平成 30 年 3 月 「木材環境研究棟」新設。
- 平成 31 年 4 月 とっとり林業技術訓練センター、木材技術工芸実習館、森林学習展示館の管理が指定管理者に移行。

II 機構 (令和 2 年 4 月 1 日現在)

1 組織・主な業務



2 職員数

(1) 職員配置状況

(令和2年5月1日現在)

課・室名	区分	事務職員	技術職員	現業職員	計	会計年度任用職員	備考
場	長		1		1		
総務担当		1		1	2	1	
森林管理研究室			5		5	10	試験地管理等
木材利用研究室			5		5	2	
計		1	11	1	13	14	

(2) 職員一覧表

(令和2年5月1日現在)

課・室名	職名	氏名
	場長	村上哲朗
総務担当	課長補佐	井上加奈子
	現業職長	玉木操
森林管理研究室	室長	山増成久
	上席研究員	池本省吾
	主任研究員	西信介
	主任研究員	矢部浩
	研究員	富森加耶子
木材利用研究室	室長	川上敬介
	主任研究員	森田浩也
	主任研究員	桐林真人
	研究員	佐々木裕介
	研究員	岡本瑞輝

Ⅲ 施 設 (令和2年4月1日現在)

試 験 場

1) 土 地	267,213.24 m ²	2) 建 物	3,935.24 m ²
建物等敷地	10,180.24 m ²	本 館	1,174.98 m ²
苗 畑	7,000.00 m ²	木材加工研究棟	936.60 m ²
シリンジ苗畑	600.00 m ²	昆虫飼育室	50.00 m ²
採 穂 園	6,000.00 m ²	車庫・機械実験室	196.00 m ²
採 種 園	22,000.00 m ²	作業舎・農機具舎	320.80 m ²
試 験 林	170,000.00 m ²	ガラス室	194.40 m ²
樹 木 園	19,000.00 m ²	温 室	100.30 m ²
人 工 槽 場	400.00 m ²	機 械 室	12.00 m ²
そ の 他	32,033.00 m ²	堆 肥 舎	50.00 m ²
		発 電 気 室	29.75 m ²
		ポ ン プ 室	12.66 m ²
		プロパン庫	8.88 m ²
		屋 外 便 所	10.21 m ²
		廃液保管庫	9.80 m ²
		製品保管庫	60.00 m ²
		苗木養成等実習館	96.99 m ²
		野鳥等自然観察施設	16.81 m ²
		少量危険物保管庫	6.62 m ²
		フォークリフト車庫	16.50 m ²
		木材環境研究棟	89.18 m ²

位置及び交通

位 置

〒680-1203 鳥取県鳥取市河原町稲常1 1 3番地

T E L (0858) 85 - 6221

F A X (0858) 85 - 6223

交 通

鳥取駅方面から智頭・河原方面行バス「稲常」下車 徒歩10分
(鳥取駅から車で15分)

IV 予算の状況 (令和元年度)

1 林業試験場費の予算額

(単位：円)

事業名	令和元年度				令和2年度 当初予算額
	当初予算額	財源内訳			
		国庫支出金	その他	一般財源	
管理運営費	33,357,000		25,000	33,332,000	20,308,000
試験研究費	9,619,000	1,046,000	2,360,000	6,213,000	10,739,000
林業試験場「森と木の情報 発信事業」	1,692,000			1,692,000	1,839,000
林木品種改良事業費	88,000			88,000	88,000
施設整備費	37,590,000		37,000,000	590,000	0
合計	82,346,000	1,046,000	39,385,000	41,915,000	32,974,000

2 その他の執行予算額

(単位：円)

科目	執行予算額
森林病虫害防除費	630,553
環境保全費	107,584
造林費	336,276
財産管理費	1,526,774
林業振興費	72,660
農業総務費	159,284
林業総務費	12,251,877
合計	15,085,008

V 試験研究成果の発表論文名一覧

発表論文名	発表者	掲載誌名	発行年月
●その他			
立木の状態で木材の強度を精度よく調べる	桐林 真人	現代林業 5月号 2019	R 元年 5月
豪雨災害が木造家屋に及ぼす影響と浸水後の対応策	川上 敬介	木材保存 Vol. 45 No. 5	R 元年 9月
葉枯らし材の産地復興に向けて	桐林 真人	木材工業 Vol. 74 No. 9	R 元年 9月
下刈作業の低コスト・労働負荷軽減の実証	山増 成久	現代林業 10月号 2019	R 元年 10月
スギ厚板耐力壁の大臣認定取得までの長い道のり	森田 浩也	木材工業 Vol. 74 No. 12	R 元年 12月
「地域木材産業と向き合う」ということ	川上 敬介	木材工業 Vol. 75 No. 1	R2 年 1月
表層崩壊の発生を予測する	小山 敢	砂防の観測の現場を訪ねて1	R2 年 3月

VI 学会発表及びその他の発表課題名一覧

発表課題名	発表者	掲載誌名	発行年月
Adhesion durability of the thinnest CLT in Japan treated by solvent recovery system	川上敬介他	IRG50 (Quebec, Canada)	R 元年 5月
鳥取県における林業専用道の災害発生状況とその特徴	矢部 浩	第70回応用森林学会大会要旨集	R 元年 9月
応力波法によるヒノキ生立木の樹幹内水分の季節変化把握の試み	桐林 真人	日本木材学会中国・四国支部第31回研究発表会研究成果要旨集	R 元年 9月
施工途中の雨掛りを想定した環境下におけるCLTの反り	佐々木裕介	同上	同上
コーンカロリメーターを用いた有節材の燃焼特性	半澤 綾菜	同上	同上
乾式処理した36mm厚CLTの接着性能	川上敬介他	(公社)日本木材加工技術協会第37回年次大会	R 元年 9月
様々な環境に暴露したCLTの経年劣化	大村和香子 川上敬介他	同上	同上
災害に強い道づくりのために ー林業専用道の損壊事例とその特徴ー	矢部 浩	第54回近畿・中国・四国地区治山林道研究発表会発表論文集	R 元年 12月
地下足袋とチェーンソーブーツの歩き方の比	小山 敢	第131回日本森林学会大会学術講演集	R2 年 3月
コウヨウザン植栽木の活着・成長特性	池本 省吾	同上	同上
ミズナラ林においてカシナガトラップで捕獲されたキクイムシ類	西 信介	同上	同上
広島県産コウヨウザンLVLの強度性能	渡辺 靖崇 川上敬介他	第70回日本木材学会大会	R2 年 3月
鳥取県初のハイブリッド無花粉スギの開発	池本 省吾	公立林業試験研究機関研究成果選集 No. 17	R2 年 3月

Ⅶ 森林講座（森のいろは塾）の開催

開催日	開催場所	概要
令和元年8月3日	林業試験場場内 及び 21世紀の森	「森の木々で標本をつくろう」、「木で染めよう」、「木工品をつくろう」の3講座を開催。研究員が講師をつとめ親子約130名が参加した。 ※トピックスでも概要を写真で紹介しています。

Ⅷ 林業試験場研究成果発表（森林・林業・木材セミナー）

開催日	開催場所	概要
令和元年12月14日	公立鳥取環境大学 (鳥取県鳥取市)	《テーマ》 つなぐ。～森・人・未来～ 《内容》 ◆特別講演 都市と森のつながりを考える 講師：水谷 伸吉 氏（一社 more trees 事務局長） ◆林業試験場成果発表 ・ハイブリッド無花粉スギの開発と普及 発表者：池本 省吾 ・CLT建築と水分管理 発表者：佐々木 裕介 ◆ポスターによる成果発表 ◆サントリー天然水の森 育林材プロジェクトの活動紹介 ポスター及び木製品の展示 ※トピックスでも概要を写真で紹介しています。 ※協賛 サントリーホールディングス株式会社

Ⅸ 利用状況

区分	経営	環境	育林	機械	病虫獣害	特産	育種	育苗	木材加工	計
受託指導	2	10	9		35	10	18	5	135	224
派遣指導		5	5		1	1	4	3	21	40

区分	機械使用	依頼試験	木材環境研究棟
件数もしくは人数	148件(延べ) (560時間)	13件	11件 (106名)

受託指導：来場、電話、メール、送付標本等による技術相談に対する指導件数。

派遣指導：研究員を現地に派遣して指導した件数。

機械使用：個人あるいは団体が木材加工研究棟の機械を使用した件数

委託試験：木材加工研究棟の機械を使用して試験を行い、試験成績書を発行した件数。

木材環境研究棟：施設見学した人数

X 講師派遣

期 日	講師名	内 容	対 象 者
R 元年 5 月 19 日	桐林 真人	低山で起こりうる遭難と回避の方法	智頭の山人塾塾生他 16 名
R 元年 5 月 21 日	小山 敢	オーストリア林業から学んだこと	山口県林業職員 50 名
R 元年 5 月 29 日	池本 省吾	林業用種苗の生産技術	林業アカデミー学生 7 名
	川上 敬介	木材の利用技術について	
R 元年 6 月 3 日	小山 敢	山の歩き方 (チェーンソーブーツ)	緑の雇用FW1 16 名
R 元年 6 月 28 日	川上 敬介	木質バイオマスの加工と産業利用	公立鳥取環境大学 3 年生 70 名
R 元年 8 月 7 日	池本 省吾	コウヨウザン植栽現地検討会	事業体職員ほか 10 名
R 元年 8 月 27 日	小山 敢	山の歩き方 (チェーンソーブーツ)	緑の雇用FW2 19 名
	矢部 浩	地形図の判読と危険地形	
R 元年 8 月 28 日	小山 敢	山の歩き方 (チェーンソーブーツ)	緑の雇用FW3 18 名
	矢部 浩	地形図の判読と危険地形	
R 元年 9 月 4 日	小山 敢	海岸植栽の苗木枯損原因	鳥取県林業職員 13 名
R 元年 9 月 11 日	山増 成久	ドローンで見る林分と路網	推進員 40 名
R 元年 9 月 25 日	矢部 浩	林業の道づくり	林業アカデミー学生 7 名
R 元年 10 月 1 日	小山 敢	森林調査・森林整備	緑の雇用FL 26 名
R 元年 10 月 2 日	矢部 浩	地形図の判読と危険地形	
R 元年 10 月 11 日	山増 成久	ドローン研修	鳥取県職員 29 名
R 元年 10 月 25 日	山増 成久	就労準備出前講座	県立日野高等学校 生徒 12 名
R 元年 10 月 29 日	矢部 浩	流木災害危険箇所現地調査業務に係る 現地検討会	事業体職員 8 名
R 元年 10 月 29 日	山増 成久	林業機械	菌じん研担い手研修生 1 名
R 元年 10 月 30 日	池本 省吾	樹木学	菌じん研担い手研修生 1 名
R 元年 10 月 30 日	矢部 浩	ミツマタの植栽	一般 50 名
R 元年 10 月 30 日	矢部 浩	地下流水音探査装置現地実習	コンサルタント 30 名
R 元年 11 月 6 日	森田 浩也	鳥取県産スギ厚板耐力壁技術講習会	県内工務店と建築士ほか 12 名
R 元年 11 月 22 日	池本 省吾	樹木に関する講義	県産業人材育成センター 6 名
R 元年 12 月 26 日	富森加耶子	カラマツの基礎	苗木生産者、事業体職員 30 名
R2 年 1 月 10 日	川上 敬介	木材の特性・流通	緑の雇用FW3 18 名
R2 年 1 月 14 日	小山 敢	チェーンソーブーツの普及	林業安全大会 100 名
R2 年 1 月 16 日	小山 敢	鳥取県のフォレスト活動(路網整備)	山口県林業職員 50 名
R2 年 1 月 17 日	矢部 浩	山地災害リスク, QGIS の操作	山口県林業職員 50 名
R2 年 1 月 21 日	矢部 浩	道づくりと危険地形	緑の雇用FW3 18 名
R2 年 1 月 22 日	桐林 真人	製材 JAS 研修 木材の乾燥と強度	製材取扱事業者 45 名
R2 年 1 月 23 日	川上 敬介	現代農林水産業事情	鳥取大学農学部 3 年生 29 名
	小山 敢		
R2 年 2 月 17 日	矢部 浩	危険地形の基礎知識	県市町村、事業体職員 60 名
R2 年 2 月 28 日	池本 省吾	生産者登録講習会	苗木生産者 3 名
	富森加耶子		
R2 年 3 月 18 日	山増 成久	ドローン研修	鳥取県職員 6 名

XI 研修生の受入れ

期 日	受入研究室	内 容	対 象 者
R 元年 5 月 13～17 日	森林管理研究室 木材利用研究室	いきいきワークかわはら 「森林・木材調査補助」	鳥取市立河原中学校 2 年生 5 名
R 元年 8 月 19～30 日	森林管理研究室 木材利用研究室	森林・木材研究補助	鳥取大学農学部 3 年生 1 名

Ⅻ 令和2年度に行う試験研究課題と関連事業

安全で資源循環利用による健全な森林育成、低コスト林業の推進、県産材の加工利用技術の開発等に関わる試験研究等を行う。

試験研究項目・課題名	予算額 (千円)	財源	研究 期間	研究 内容
1 健全で豊かな森林づくりに関する研究				
(1) ハイブリッド無花粉スギの創出 	344	県	H24～ R3	耐虫性および耐雪性品種などに無花粉形質を取り込んだ付加価値の高いスギ造林品種を創出する。
(2) 早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験 	454	県	H29～ R3	早生樹を利用した短伐期林業の技術体系化に必要な育苗・育林技術開発、及び有用広葉樹の育林技術を確立する。
(3) 山地災害リスクを避・軽減する現地判定技術の開発 	275	国 (受託)	H28～ R2	山地災害の危険度把握技術及び危険度に対応した施業の選択技術を開発する。 《共同研究》森林総研、東京大学、岩手大学、宮崎大学、秋田県、長野県、岐阜県、兵庫県
(4) 樹木根系を考慮した防災林配置技術の開発 	400	国 (受託)	H30～ R4	森林立地環境と樹木根系の分布特性を明らかにし、立地環境に応じた防災林配置技術を開発する。 《共同研究》森林総研、岐阜県、福岡県
(5) 高齢広葉樹の萌芽更新技術の確立 	382	県	H28～ R2	高齢・大径化したナラ類を主とする広葉樹林の萌芽力試験等を行い、広葉樹林を適切に循環利用する萌芽更新技術を確立する。
(6) 鳥取県でのカラマツの育苗・植栽技術の確立 	640	県	H31～ R4	カラマツを鳥取県の新たな造林樹種にするため、育苗試験、植栽適地調査、シカ食害実態調査及び忌避剤効果検証試験を行う。
(7) 夏季の下刈り作業における労働環境の改善 	632	県	H31～ R2	夏季の過酷な下刈り作業の労働環境改善のため、ヘルメットのクーリング装置及び給水装置を試作し、作業効率・労働負荷の改善を図る。
(8) 小型ドローンレーザーによる林分解析技術の確立 	900	県	H31～ R3	レーザー計測装置を搭載できるドローンの試作・飛行試験を行い、俯瞰的な視点で効率的に精度良く計測できる方法を確立する。
(9) 原木シイタケの虫害に関する研究 	2,353	県	R2～ R4	シイタケオオヒロズコガ類成虫の捕獲方法及び、シイタケ子実体からの幼虫除去方法の開発を行う。
小 計	6,280			

試験研究項目・課題名	予算額 (千円)	財源	研究 期間	研究内容
2 県産材の利用拡大に関する研究				
(1) とっとりの新しい CLT の製造・利 用技術の確立	1,219	国・県	H31～ R3	厚板を原材料としたCLTの製造技術 を確立する。また、製品の構造性能 を明らかにすることで建築での利用方 法を提案する。
(2) 防火・防炎性を 付与した LVL 内 装材の開発	756	国・県	H31～ R3	LVL 内装材に適した防火・防炎性を 付与するため、薬剤の種類、処理方法 等を検討し、製造技術を確立する。
(3) 県産材の建築用 途を広げる JAS 規格材の利用技 術に関する研究	940	国・県	R2～ R6	県産材の機械等級区分製材として の性能分布や接合性能を明らかにし、 中規模建築や非住宅での構造設計に 役立つ基礎資料とする。
(4) 樹齢に応じた「県 産スギ材の良さ」 に関する研究	736	国・県	R2～ R6	適材適所での利活用の推進による 県産スギ材の付加価値販売を目標 に、県産スギ材の樹齢に応じた材質特 性(良さ)を数値的に明らかにする。
(5) 燃料チップの地 域内安定供給体 制整備のための 研究	808	国・県	R2～ R4	チップ原木の簡易な含水率判定手 法開発と山土場等で実施可能な原木 乾燥手法のマニュアルを作成する。
小 計	4,459			
《試験研究費計》	10,739			
《管理運営費》	20,308			
《施設整備費》	0			
合 計	31,047			

2 関連事業

事業名	担当者
(1) 林木品種改良事業	玉木 操、富森加耶子
(2) 樹苗養成事業	池本 省吾、富森加耶子
(3) 森林病虫害防除事業	西 信介
(4) 環境省酸性雨モニタリング事業	山増 成久

3 臨時的調査研究事業

生産現場の突発的な技術課題の解決、本格的な試験研究を実施する前の事前調査、研究素材の蓄積や研究員の資質向上等に必要試験研究を、迅速かつ柔軟に実施する。